

令和2年度 第3回 碧南市地域福祉計画策定委員会 会議録

1 日時

令和2年10月27日（火）午前10時から午前10時23分まで

2 場所

へきなん福祉センターあいくる 1階 会議室1・2・3

3 出席者及び欠席者

(1) 出席者（各種団体の代表者）

河原厚司、杉浦邦俊、長谷基宏、禰宜田知司、古井露子、鈴木たか子、牧野昭彦、永坂幸子、鳥居寛英、立花明徳

(2) 欠席者

對馬幸司、服部千代美、磯貝雅樹

(3) アドバイザー

日本福祉大学社会福祉学部 野尻紀恵 教授

(4) 事務局職員

ア 碧南市役所

福祉こども部長 杉浦秀司、福祉課長 杉浦浩二、福祉課社会福祉係長 河原睦、社会福祉係主査 沼田京子、社会福祉係主事 杉浦久美子、澤田直也、板倉尚宏

イ 碧南市社会福祉協議会

地域福祉課長兼地域福祉係長 鈴木利男、地域福祉係主査 古川裕隆、小島誠司

4 傍聴者

0人

5 議事

(1) 議題

次期へきなん地域福祉ハッピープランの計画案について

(2) その他

6 議事の要旨

(1) 議題

次期へきなん地域福祉ハッピープランの計画案について
事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

【委員】：78ページの「3 計画の進捗管理・評価」の2行目「毎年、庁内の関係課や社協における進捗状況を『地域福祉計画推進委員会』において総合的に評価し」とあるが、この会議の位置づけは。

【事務局】：今年度は地域福祉計画の策定を行うため本日のように「地域福祉計画策定委員会」を開催しているが、それ以外の年度は、計画の進捗管理・評価を協議する「地域福祉計画推進委員会」を開催している。また、地区ごとに地域住民の参加のもと「地域福祉推進会議」を開催しており、地域福祉計画の推進の方針や、今年度については来年度以降の計画づくりを協議している。

(3) その他

事務局から口頭にて、次回会議の実施案内について連絡。

(4) アドバイザー（日本福祉大学社会福祉学部 野尻紀恵 教授）による総括

素案4ページにある「自助」・「共助」・「互助」・「公助」の言葉は、市民にとっては聞き慣れておらず、分かりにくいのではと思う。法律用語などは表現として堅く、分かりにくくなりがちで、「自助・共助・互助・公助がひとつになり地域をつくっていく」というイメージが持ちにくいと思うので、もう少し考えてほしいと思う。当日配布資料3ページにある図は、その素案4ページ以降と関係性のある箇所かと思う。イメージ図の右側が最終目標とされ、右への矢印に「地域福祉活動の積み重ね」と書かれているが、この「地域福祉活動の積み重ね」が、市民に地域福祉を理解してもらうために最も大切な箇所であり、この「積み重ね」の大切さを伝えるためのものが、このハッピープランであると思っている。出だしであるイメージ図の左側と最終目標の右側とがあるが、最終目標は、「本当にここに到達するか」「いつ到達できるのか」というくらいの遙か先の目標である。それがイメージ図の右側に書かれているため、イメージ図の左右で話が飛躍しているように感じる。イメージ図の真ん中の矢印「地域推進活動の積み重ね」が現在地域が進めているところであり、その進め方が当日配布資料の4ページ以降の地区別の個別計画となっている。左右のイメージ図の間の矢印の部分を理解してもらえよう、もう少しイメージ図が修正すると良い。

また、当日配布資料4ページ以降に、各地区のデータ・アンケートからみる状況があり、それに対して、重点目標と今後の取り組み案が載せられている。しかし、データやアンケートだけだと、地域福祉推進会議を開催し、地域の人たちで話し合っ

くったものに捉えにくくなってしまふ。データとこれまでの取り組みをふまへ、地域福祉推進会議で地域の住民の皆で取り組み案を協議し、策定したという流れがあるので、そのことを見えるようにすると碧南市らしい、住民が活躍している推進の姿がでるのではないかと思う。